2023 ズバリ！的中

古文

岐阜大学

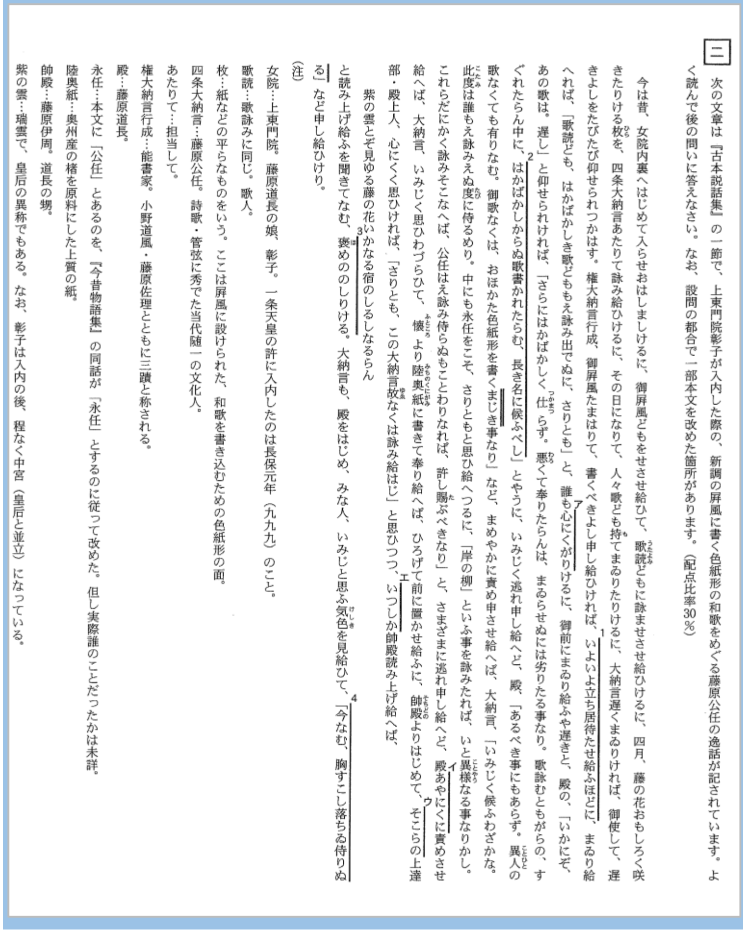
『古本説話集』の本文が的中

入試問題

前期日程
二

河合塾

冬期講習　古文総合
補充問題【4】



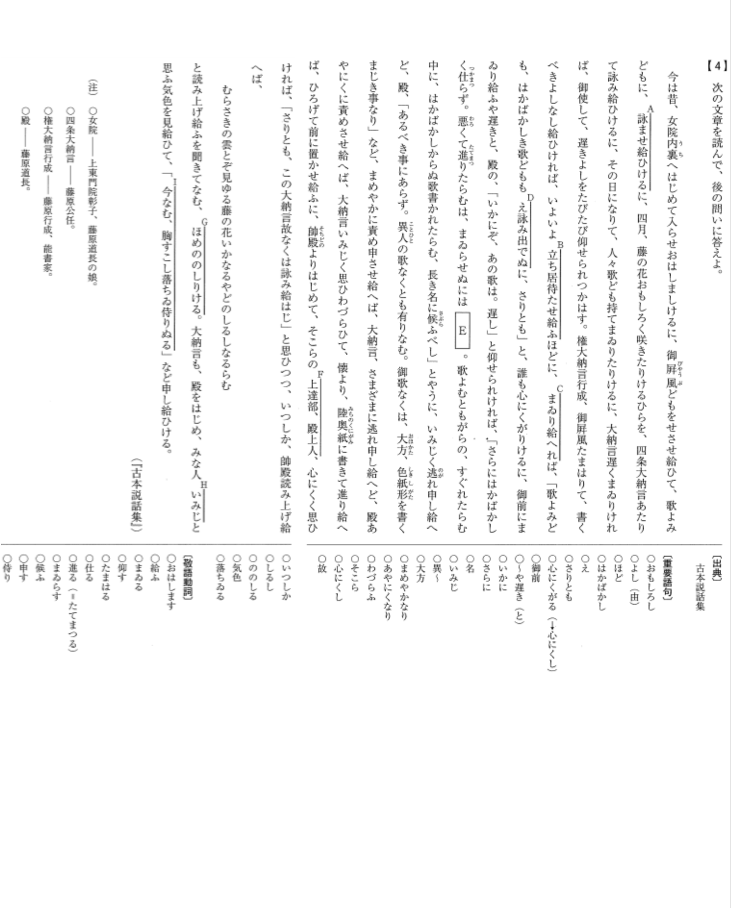
二　次の文章は『古本説話集』の一節で、上東門院彰子が入内した際の、新調の屏風に書く色紙形の和歌をめぐる藤原公任の逸話が記されています。よく読んで後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で一部本文を改めた箇所があります。（配点比率30％）

今は昔、女院内裏へはじめて入らせおはしましけるに、御屏風どもをせさせ給ひて、歌読どもに詠ませさせ給ひけるに、四月、藤の花おもしろく咲きたりける枚を、四条大納言あたりて詠み給ひけるに、その日になりて、人々歌ども持てまゐりたりけるに、大納言遅くまゐりければ、御使して、遅きよしをたびたび仰せられつかはす。権大納言行成、御屏風たまはりて、書くべきよし申し給ひければ、いよいよ立ち居待たせ給ふほどに、まゐり給へれば、「歌読ども、はかばかしき歌どももえ詠み出でぬに、さりとも」と、誰も心にくがりけるに、御前にまゐり給ふや遅きと、殿の、「いかにぞ、あの歌は。遅し」と仰せられければ、「さらにはかばかしく仕らず。悪くて奉りたらんは、まゐらせぬには劣りたる事なり。歌詠むともがらの、すぐれたらん中に、はかばかしからぬ歌書かれたらむ、長き名に候ふべし」とやうに、いみじく逃れ申し給へど、殿、「あるべき事にもあらず。異人の歌なくても有りなむ。御歌なくは、おほかた色紙形を書くまじき事なり」など、まめやかに責め申させ給へば、大納言、「いみじく候ふわざかな。此度は誰もえ詠みえぬ度に侍るめり。中にも永任をこそ、さりともと思ひ給へつるに、「岸の柳」といふ事を詠みたれば、いと異様なる事なりかし。これらだにかく詠みそこなへば、公任はえ詠み侍らぬもことわりなれば、許し賜ぶべきなり」と、さまざまに逃れ申し給へど、殿あやにくに責めさせ給へば、大納言、いみじく思ひわづらひて、懐より陸奥紙に書きて奉り給へば、ひろげて前に置かせ給ふに、帥殿よりはじめて、そこらの上達部・殿上人、心にくく思ひければ、「さりとも、この大納言故なくは詠み給はじ」と思ひつつ、いつしか帥殿読み上げ給へば、

紫の雲とぞ見ゆる藤の花いかなる宿のしるしなるらん

と読み上げ給ふを聞きてなむ、褒めののしりける。大納言も、殿をはじめ、みな人、いみじと思ふ気色を見給ひて、「今なむ、胸すこし落ちゐ侍りぬる」など申し給ひけり。

（注）
女院…上東門院。藤原道長の娘、彰子。一条天皇の許に入内したのは長保元年（九九九）のこと。
歌読…歌詠みに同じ。歌人。
枚…紙などの平らなものをいう。ここは屏風に設けられた、和歌を書き込むための色紙形の面。
四条大納言…藤原公任。詩歌・管弦に秀でた当代随一の文化人。
あたりて…担当して。
権大納言行成…能書家。小野道風・藤原佐理とともに三蹟と称される。
殿…藤原道長。
永任…本文に「公任」とあるのを、『今昔物語集』の同話が「永任」とするのに従って改めた。但し実際誰のことだったかは未詳。
陸奥紙…奥州産の楮を原料にした上質の紙。
帥殿…藤原伊周。道長の甥。
紫の雲…瑞雲で、皇后の異称でもある。なお、彰子は入内の後、程なく中宮（皇后と並立）になっている。



【4】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、女院内裏へはじめて入らせおはしましけるに、御屏風どもをせさせ給ひて、歌よみどもに、詠ませ給ひけるに、四月、藤の花おもしろく咲きたりけるひらを、四条大納言あたりて詠み給ひけるに、その日になりて、人々歌ども持てまゐりたりけるに、大納言遅くまゐりければ、御使して、遅きよしをたびたび仰せられつかはす。権大納言行成、御屏風たまはりて、書くべきよしなし給ひければ、いよいよ立ち居待たせ給ふほどに、まゐり給へれば、「歌よみども、はかばかしき歌どももえ詠み出でぬに、さりとも」と、誰も心にくがりけるに、御前にまゐり給ふや遅きと、殿の、「いかにぞ、あの歌は。遅し」と仰せられければ、「さらにはかばかしく仕らず。悪くて進りたらむは、まゐらせぬには E 。歌よむともがらの、すぐれたらむ中に、はかばかしからぬ歌書かれたらむ、長き名に候ふべし」とやうに、いみじく逃れ申し給へど、殿、「あるべき事にあらず。異人の歌なくとも有りなむ。御歌なくは、大方、色紙形を書くまじき事なり」など、まめやかに責め申させ給へば、大納言、さまざまに逃れ申し給へど、殿あやにくに責めさせ給へば、大納言いみじく思ひわづらひて、懐より、陸奥紙に書きて進り給へば、ひろげて前に置かせ給ふに、帥殿よりはじめて、そこらの上達部、殿上人、心にくく思ひければ、「さりとも、この大納言故なくは詠み給はじ」と思ひつつ、いつしか、帥殿読み上げ給へば、

むらさきの雲とぞ見ゆる藤の花いかなるやどのしるしなるらむ

と読み上げ給ふを聞きてなむ、ほめののしりける。大納言も、殿をはじめ、みな人いみじと思ふ気色を見給ひて、「今なむ、胸すこし落ちゐ侍りぬる」など申し給ひける。

（『古本説話集』）

（注）
○女院——上東門院彰子、藤原道長の娘。
○四条大納言——藤原公任。
○権大納言行成——藤原行成、能書家。
○殿——藤原道長。

〔出典〕
古本説話集

〔重要語句〕
○おもしろし
○よし（由）
○ほど
○はかばかし
○え
○さりとも
○心にくがる（→心にくし）
○御前
○～や遅き（と）
○いかに
○さらに
○名
○いみじ
○異～
○大方
○まめやかなり
○あやにくなり
○わづらふ
○そこら
○心にくし
○故
○いつしか
○しるし
○ののしる
○気色
○落ちゐる

〔敬語動詞〕
○おはします
○給ふ
○まゐる
○仰す
○たまはる
○仕る
○進る（＝たてまつる）
○まゐらす
○候ふ
○申す
○侍り

河合塾